

## 2008 K-CAPPIC SUMMARY

### 「周産期医療専門医養成プログラムの成果と今後」

平成18年度文部科学省医療人GP「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」で選定され、2年半の活動を行ってきた当プログラムは本年度3月で終了する。この間に周産期医療専門医養成センター（K-CAPPIC）が目指したことは、周産期医療臨床研修のための新たな教育体制構築と能登地域における周産期医療専門医養成環境整備である。多くの地域医療関係者の協力のおかげで、これから産婦人科医、小児科医を目指そうという若い人材が集まる魅力ある研修環境が整いつつある。

教育体制は、PBL(problem based learning) シミュレーション教育 循環型合宿臨床研修を繰り返す“K-CAPPIC サーキット”というシステムがしっかりと定着、機能している。2008年度は、4年生の冬学期よりこのプログラムに参加してきた医学生たちが6年生となり（K-CAPPIC コアグループ）、“K-CAPPIC サーキット”による1年半の十分な研修前教育を経て、海外研修を含めたクリニカルクラークシップ（医学部6年生時正規カリキュラムである診療参加型臨床実習）をおこなった。またコアグループに刺激され途中参加した6年生を含めて、全体で14名がK-CAPPICのクリニカルクラークシップに参加した。これは金沢大学医学部の全クリニカルクラークシッププログラムの中で最多の受け入れ人数である。都市部だけでなく地域病院、開業クリニック、そして海外研修施設を循環しながら研修する循環型合宿研修は、周産期医療の臨床研修を行うにあたっての医学生と指導医の意識、目標など、どのような準備や環境が必要であるかを考えるよい機会となった。特に医学生の臨床研修を展開する上で重視したのが、従来からおこなわれてきた病棟の重症患者を学習内容の中心に据えた見学中心の研修ではなく、外来の妊婦健診への参加である。そこでは、指導医に張り付いて20~30人の患者の診療をシャドーイングする形ではなく、半日で数人にしぼって、問診、外診、超音波検査、内診、保健指導という流れに医療チームの一員として参加するという形を取るようにした。そのことによって、研修に参加した医学生は、便秘、カンジダ症、お腹の張り、腰痛、帯下の異常、つわりなど、妊婦のありふれた訴えに遭遇し、「産科のcommonに対応できる力を養う臨床実習」を経験することになった。この研修は参加者の実践度を高め、その結果として当プログラム参加による高い満足度につながった（資料）。

また昨年度までに行った海外視察で、K-CAPPICの提携病院となったハワイ大学、ミシガン大学、ニューヨーク州立大学におけるコアグループの海外研修は、単に医学生の研修成果につながっただけではなく、日本の周産期管理体制を見直すシステム作りのあ

り方を世界的基準で再検討するよい機会となった。またコアグループの1名がベトナム TUDU 病院での研修に参加したことによって、アジアの途上国における周産期管理体制事情をも知ることとなった。これらの活動成果を、7月に行われたシンポジウムや地域学会で医学生たち自身が発表を行った。

能登地域の医療体制を今後も維持するためには、若い人材が集まる“魅力ある”特色を持った研修環境が必要であった。“魅力ある”という言葉を実現化するにはしっかりと今の医学生や研修医の願望を把握しなければならない。K-CAPPIC がおこなったアンケート調査で、産婦人科、小児科の診療能力を身につけたいという医学生は約65%にも上り、さらにその9割以上がプライマリケア診療能力を身につけたいと考えていることがわかった(資料)。その声に我々は着目し、産婦人科や小児科をプライマリケアの一環として研修できるプログラム構築を目指した活動への協力をおこなった。その結果、ミシガン大学より家庭医である吉岡哲也先生が、恵寿総合病院に昨年秋に着任。産婦人科・小児科診療をも扱えるプライマリケア医が地域拠点病院における医学教育に加わったことにより、2009年度より産婦人科、小児科と家庭医療学センターが協力し合う診療・教育体制が本格的にスタートする(資料)。この医学生や研修医の願望に見合った環境整備は、2009年度恵寿総合病院の初期研修定員枠4名が、K-CAPPICプログラム参加者によりフルマッチングしたという成果につながった(資料)。

さらに、医師不足の地域医療環境整備への貢献を目指し、全世界に普及しているシミュレーション教育、ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics) を導入した。ALSOとは、世界25カ国以上、5万人以上の周産期医療プロバイダーが受講し、先進国だけでなく、周産期医療従事者の不足する地域や発展途上国における周産期管理体制の強化に貢献している産科救急セミナーである。少人数グループでマネキンを使って救急診療を学ぶ心肺蘇生のACLSやBLSの産科版である。米国ALSOのAdvisory FacultyであるDr. Baileyを招き、金沢にて2008年11月22日～24日に日本で初めてALSO JAPANプロバイダーコース、インストラクターコースを開催し、国内、米国より23名が参加した。2009年度以降は周産期医療専門医養成研修の充実、全国の地域医療体制強化策の切り札としてALSOの全国展開を行っていく計画である。

文部科学省の医療人GP後の新体制として、新たに金沢大学大学院医学系研究科に周産期医療専門医養成学講座を開設することが認可された。またその活動を支えるべくNPO法人周産期医療専門医養成支援機構が発足した。新講座は周産期医療における教育シラバスの質をさらに高めることを目指した医学教育研究を、機構はその活動をバックアップするとともに、ALSO JAPANの運営を行っていく(資料)。

金沢大学から発信するこれらの新しい試みが、周産期地域医療を長期的に支えるモデ

ル事業となれるよう今後も K-CAPPIC は活動を展開していく。若い志を育み、地域医療に貢献するために。

# 資料

## 金沢大学医学部4年生～6年生に対するアンケート結果(回答率70.8%)

(1)プライマリケア診療能力を身につけたいと思うか？

- |                |       |
|----------------|-------|
| a.絶対に身につけたい    | 32.1% |
| b.できるだけ身につけたい  | 45.9% |
| c.ある程度身につけたい   | 18.3% |
| d.可能なら身につけたい   | 2.3%  |
| e.身につけられなくてもいい | 1.4%  |

} 78.0%

この内、75.9%は  
(2)でaまたはb  
と回答

(2)産婦人科、小児科の診療能力を身につけたいと思うか？

- |                |       |
|----------------|-------|
| a.絶対に身につけたい    | 21.1% |
| b.できるだけ身につけたい  | 43.5% |
| c.ある程度身につけたい   | 25.6% |
| d.可能なら身につけたい   | 7.7%  |
| e.身につけられなくてもいい | 1.8%  |

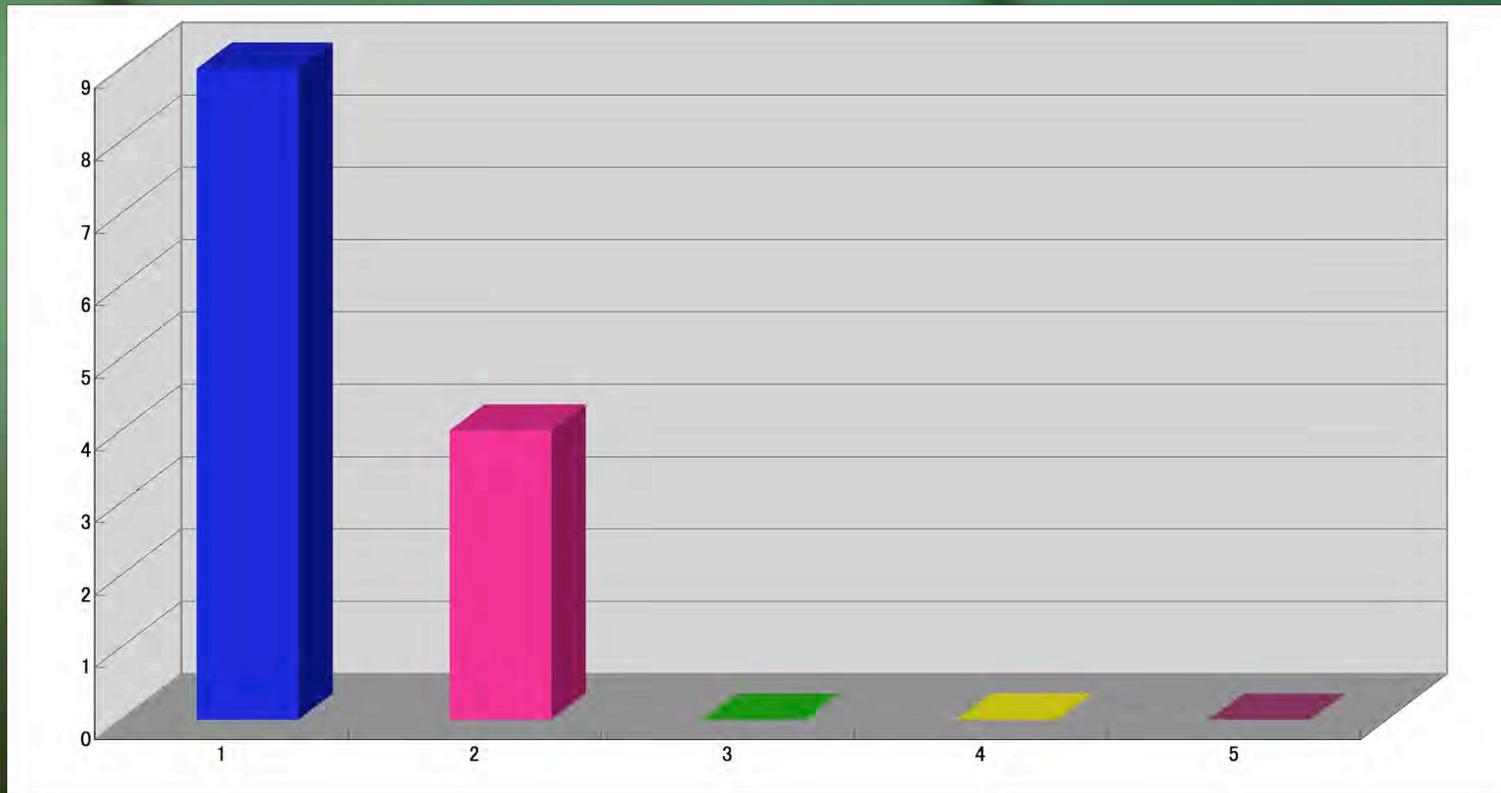
} 64.6%

この内、92.1%は  
(1)でaまたはb  
と回答

CAPPIC  
循環型合宿研修  
アンケート

# 研修前教育は役に立ったか？

人数

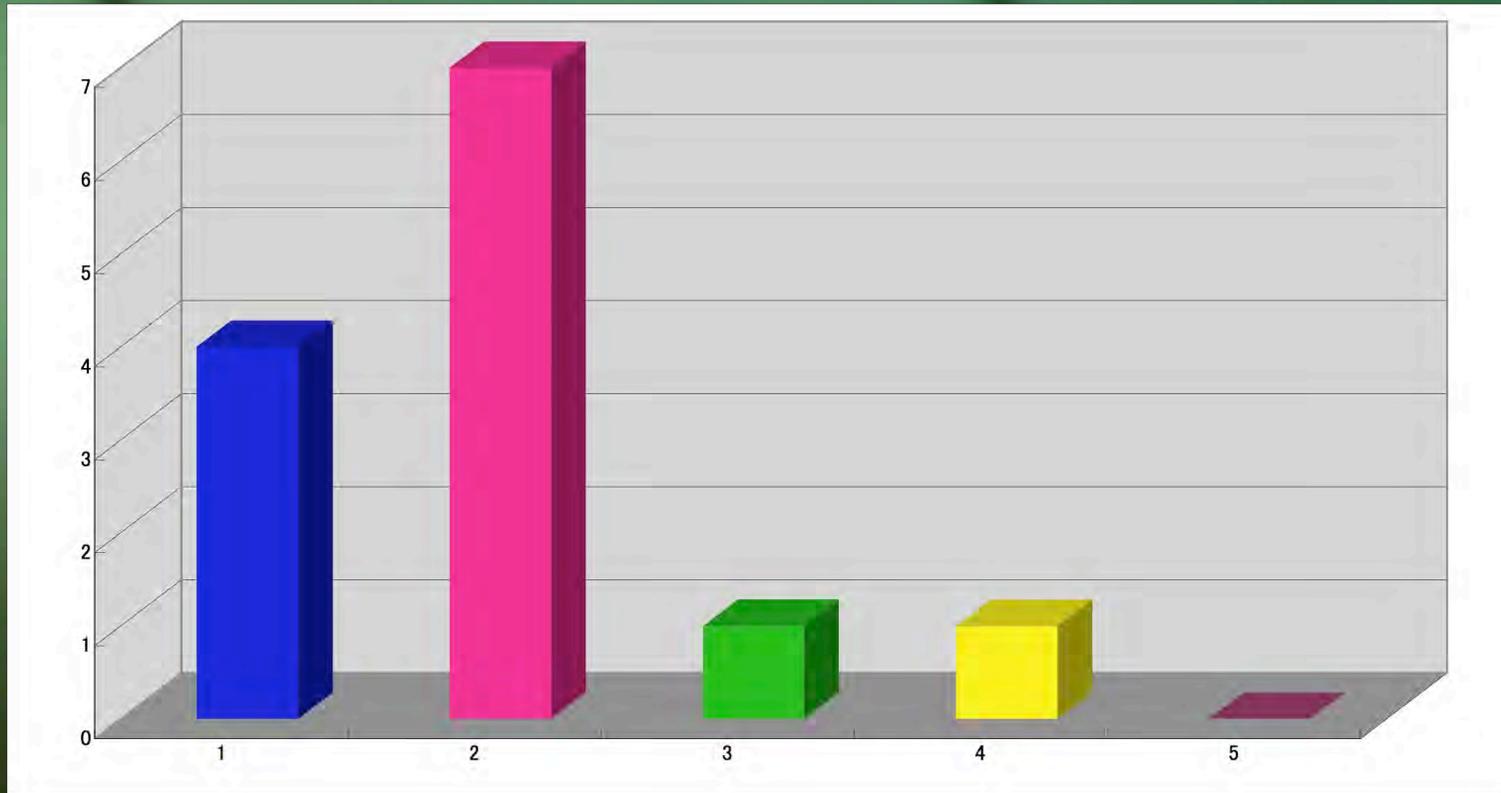


とても役に立った

まったく役に立たなかった

# PBLを活かすことができたか？

人数

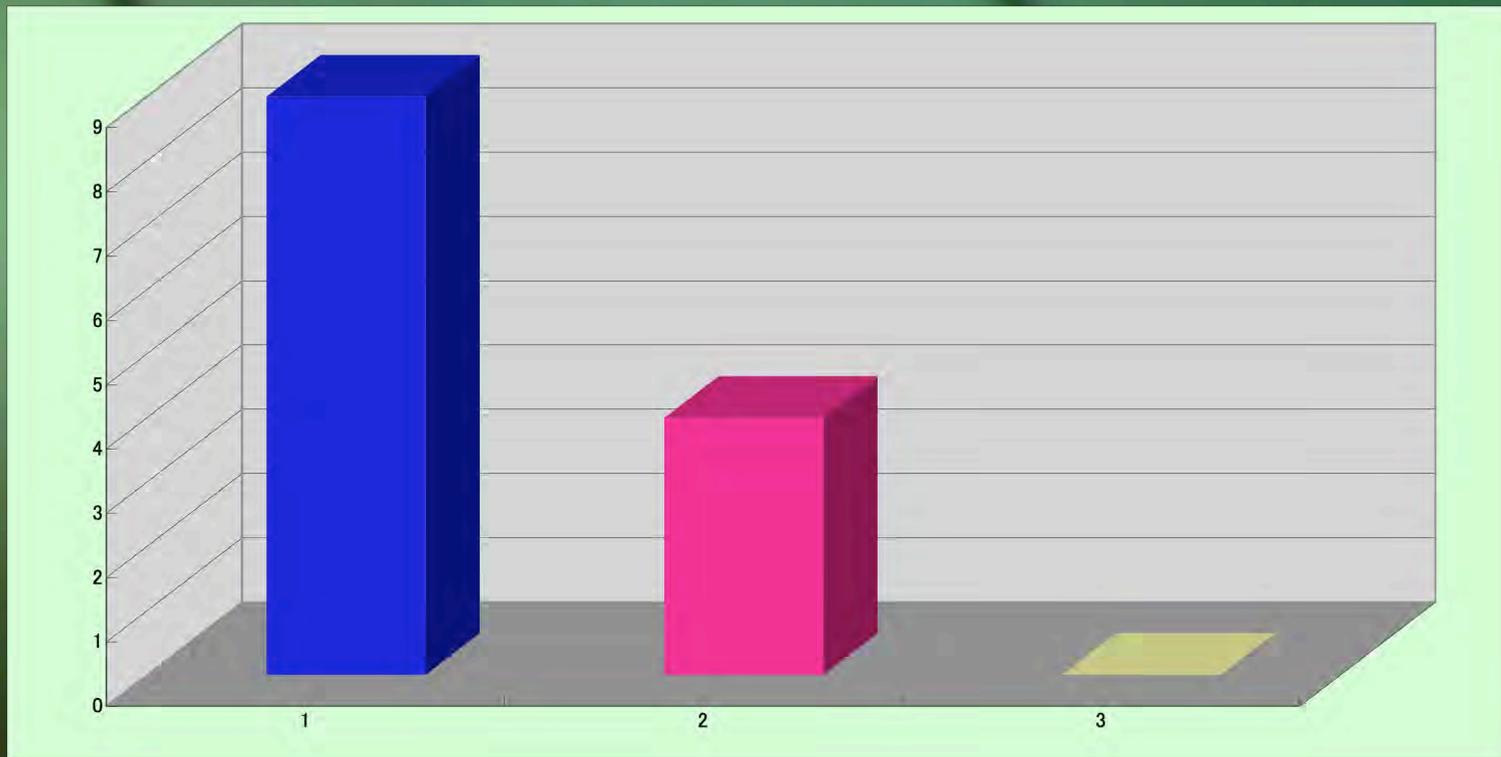


とても  
活かされた

まったく  
活かされな  
かった

# 診療参加型研修(実践度)

人数



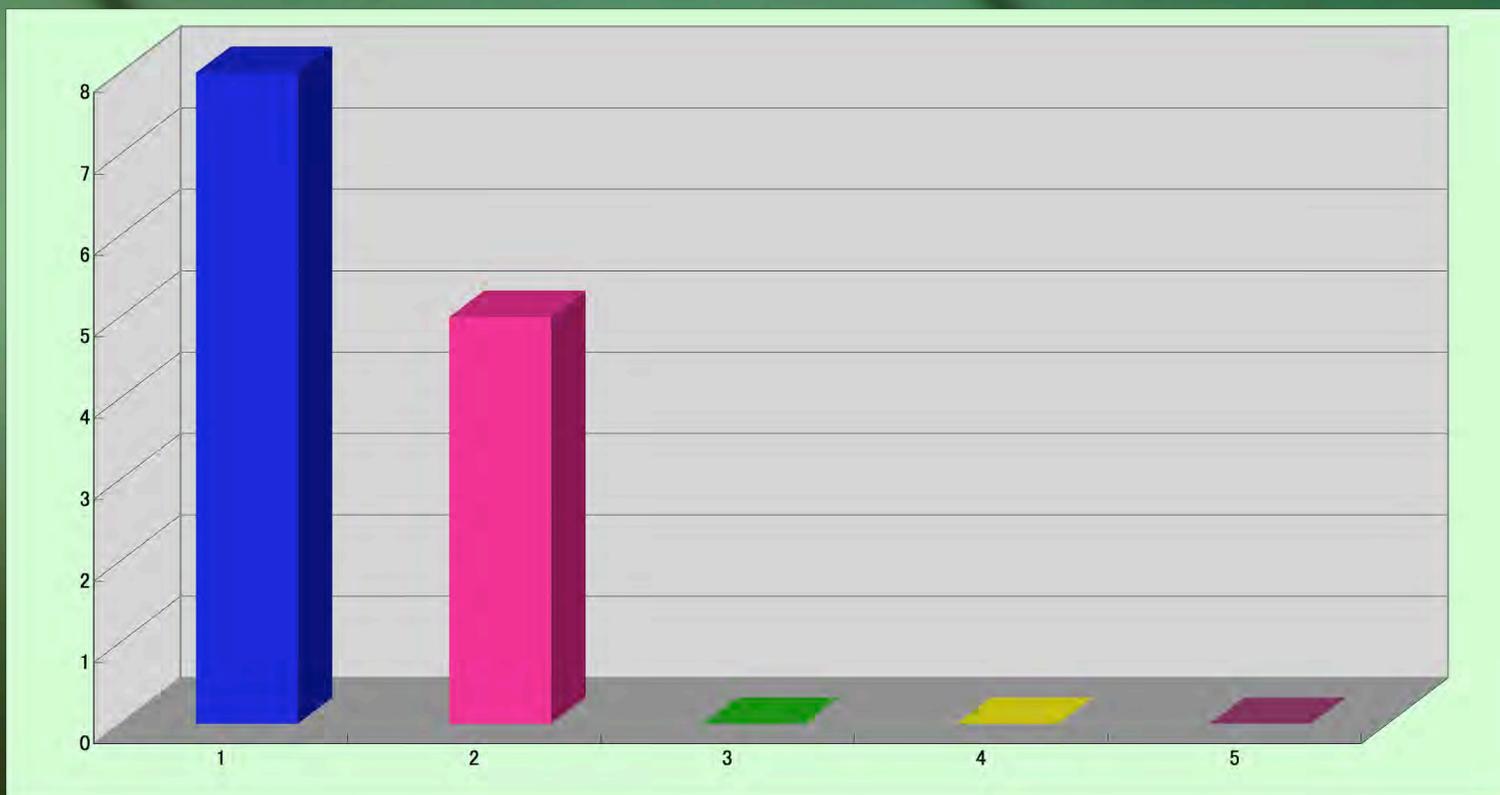
予想以上

予想通り

予想以下

# 周生期クリクラの満足度

人数

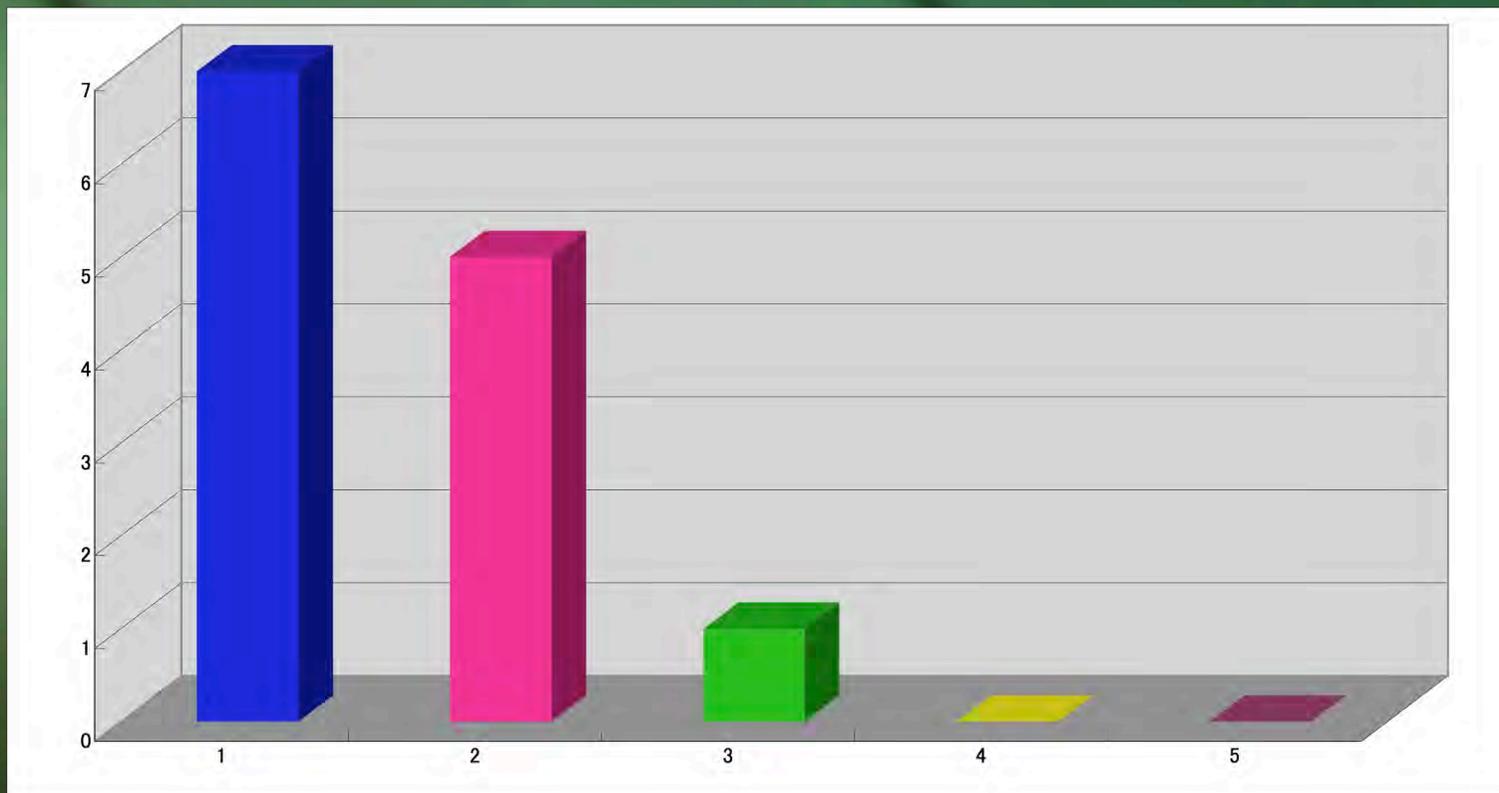


とても満足

とても不満

# 周生期への興味度

人数



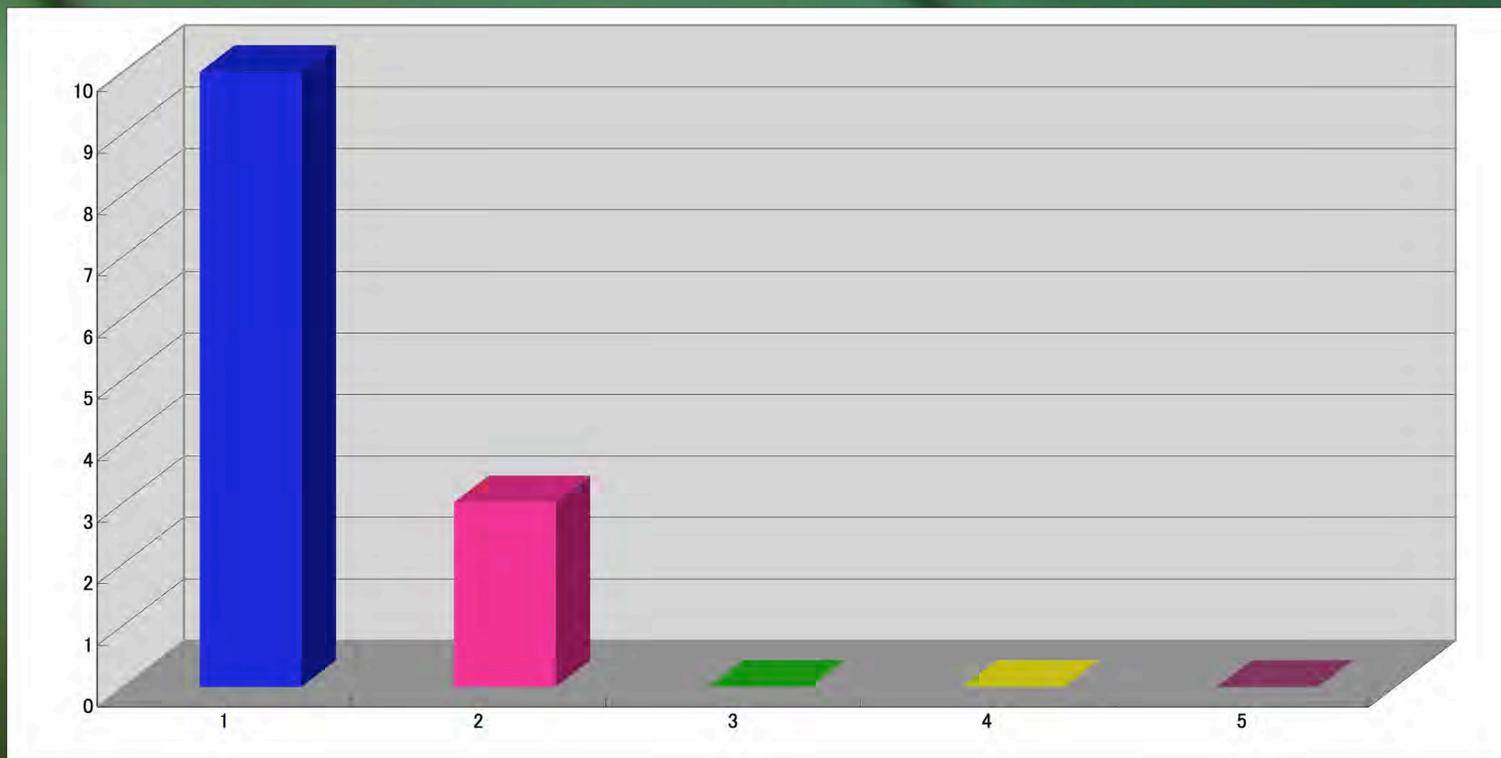
とても  
強くなった

変化無し

まったく  
なくなった

# 初期研修へ向けて役に立つか？

人数

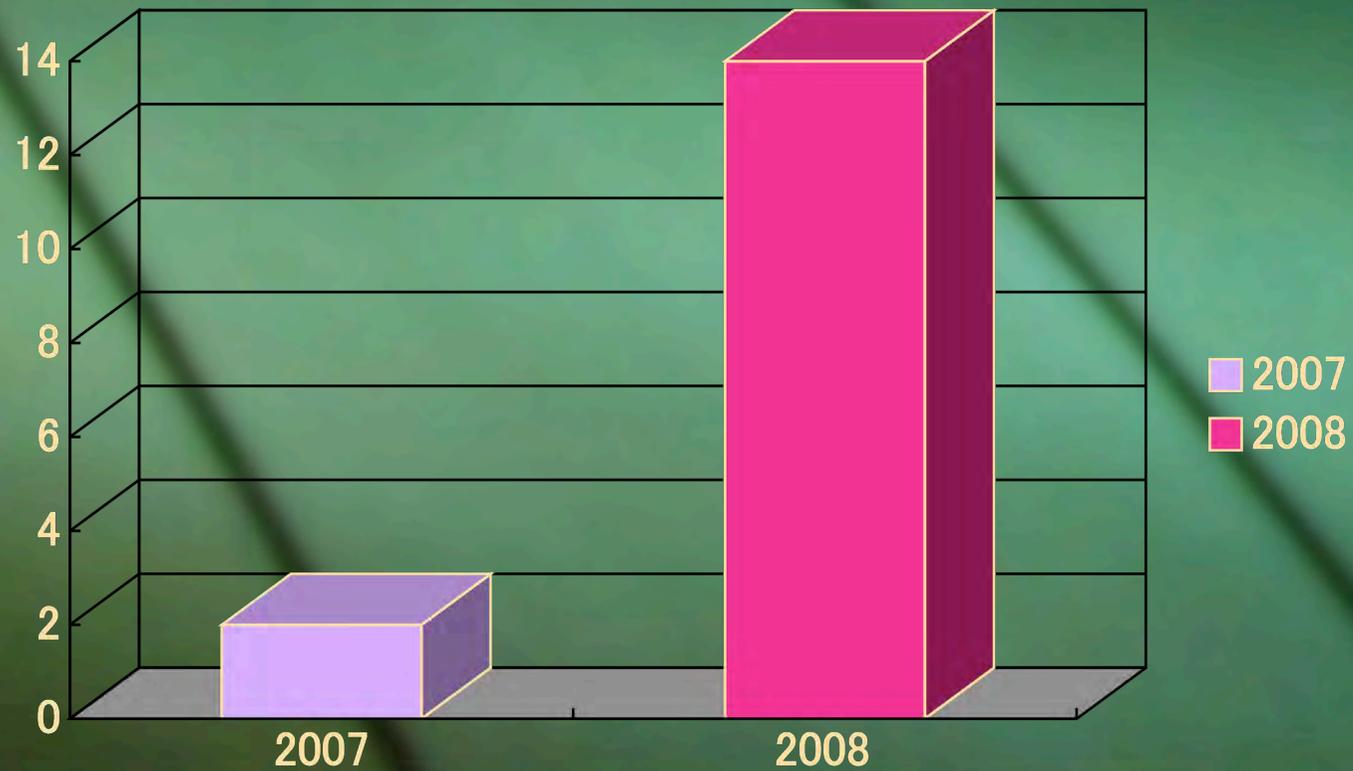


強く思う

まったく  
思わない

# 医学部 6 年生

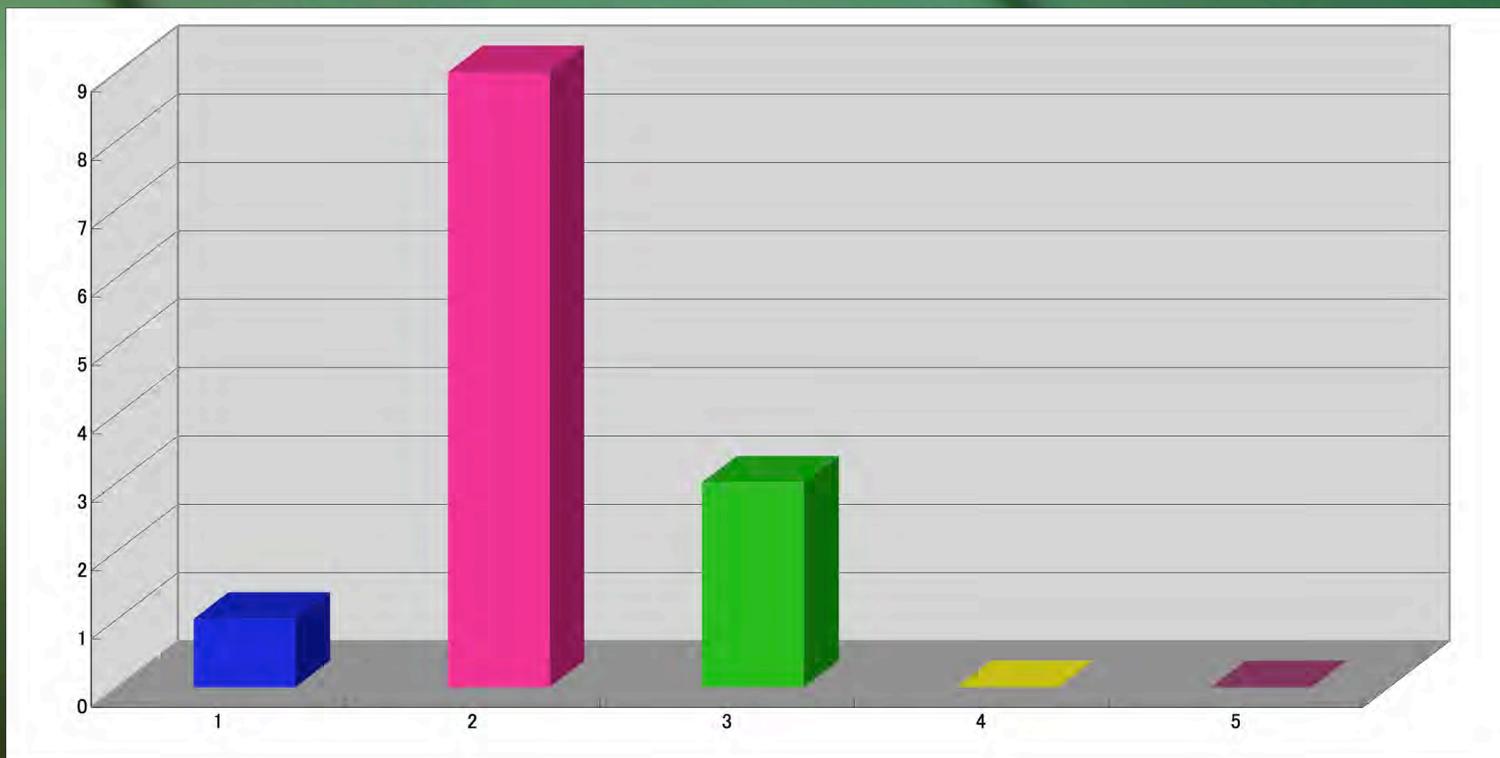
## クリニカルクラークシップ参加申し込み人数



地域医療と医学生が関わりを持てる貴重な機会

# 地域医療の現状への理解

人数

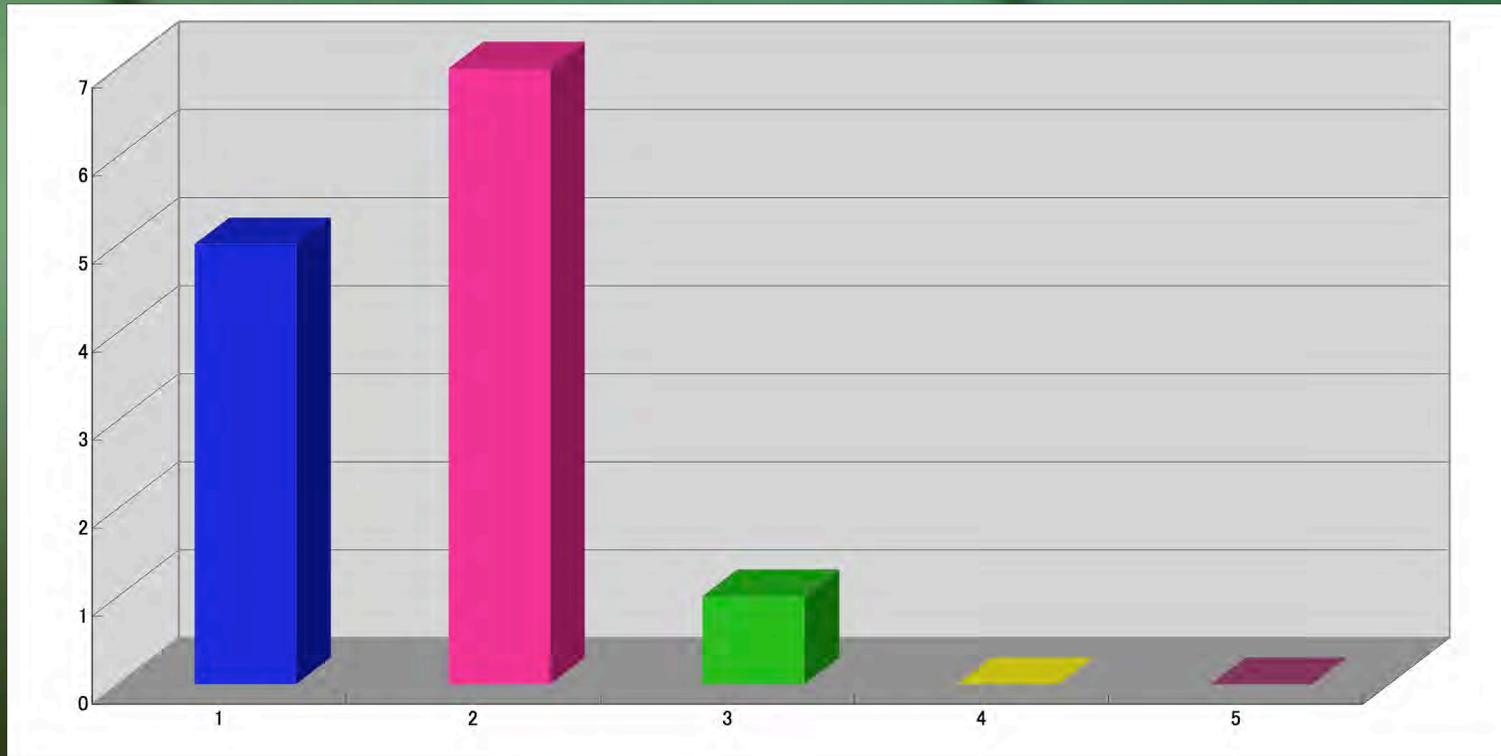


よく  
理解できた

まったく  
理解できな  
かった

# 将来地域医療に貢献したいか？

人数

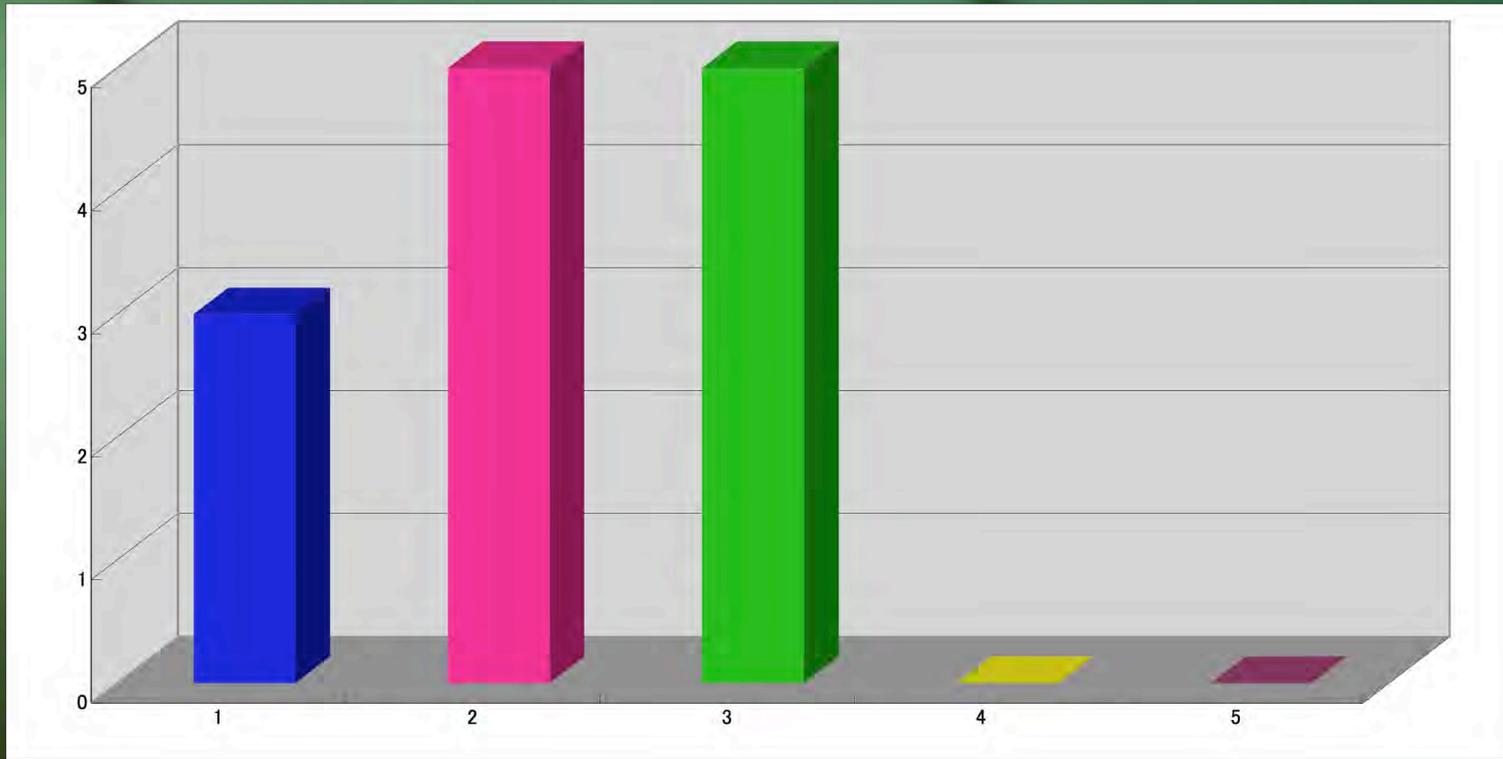


強く思う

まったく  
思わない

# 地域病院の研修環境 都市部病院と比較して

人数



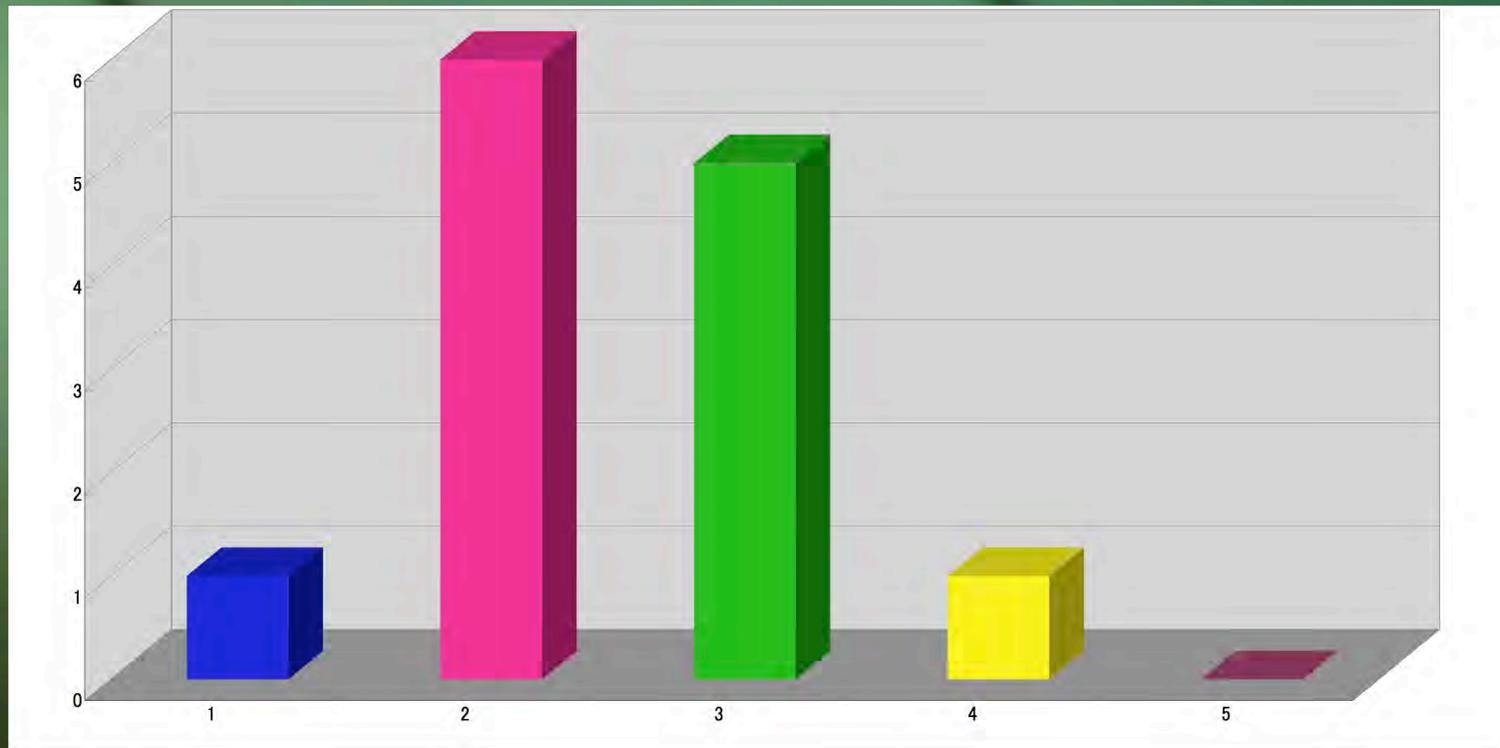
都市部病院

遜色ない

とても悪い

# 地域病院はマッチングの選択肢か？

人数



強く思う

まったく  
思わない

# 研修病院マッチング結果

(周生期クリニック参加者の結果集計)

人数



地域

都市部

# 周生期医療専門医養成コース

## 2009能登地域周生期医療・教育連係体制

～研修医・医学生を能登地域医療圏・大学が協力し合って育むプログラム～

### 恵寿総合病院

周生期医療研修拠点病院

### 家庭医療学センター

産婦人科・小児科を含めたプライマリケア外来を实践・教育  
分娩を含めた周生期医療の一部をプライマリケア医が担う

### 能登公立病院群

診療・教育連係

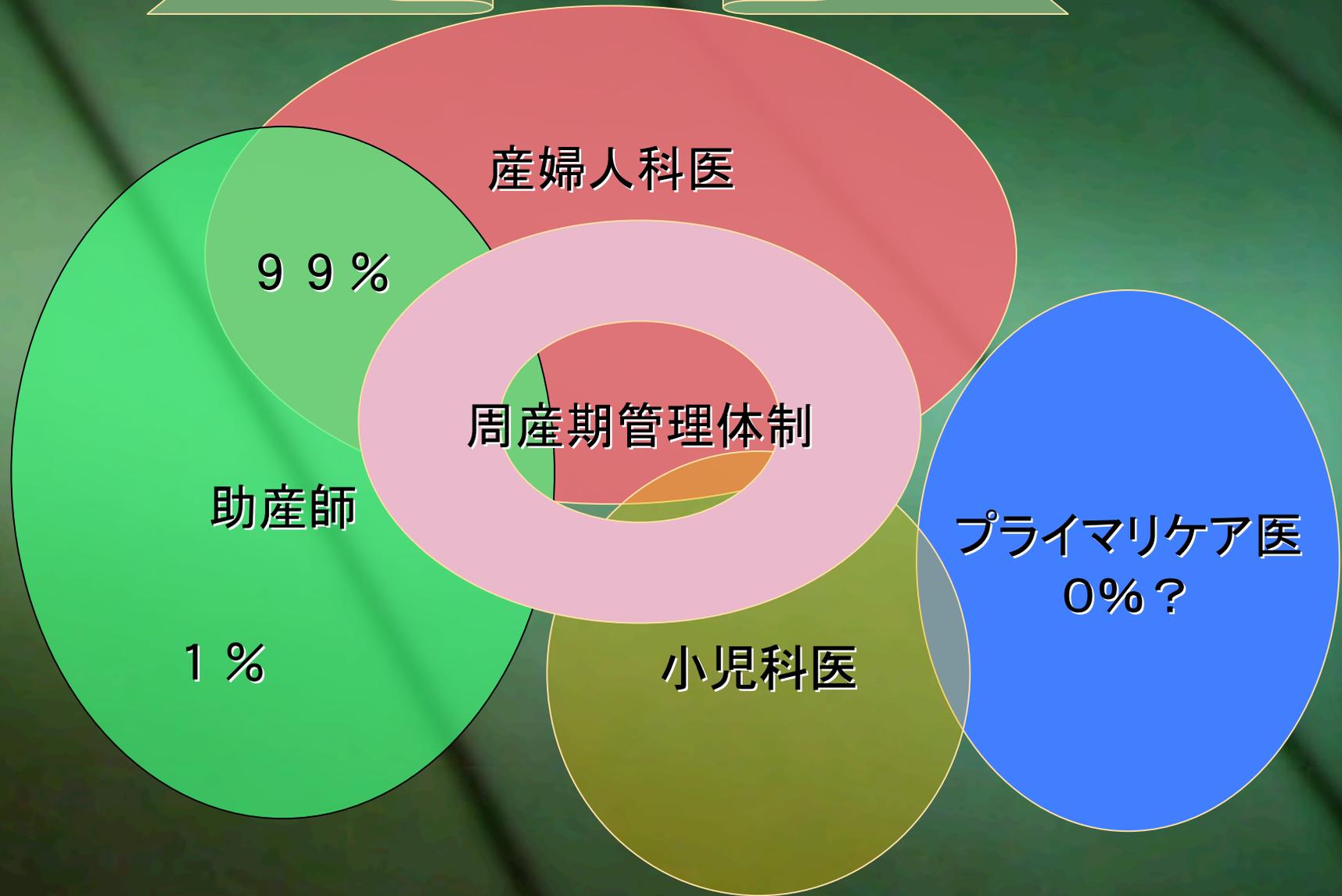
診療・教育連係

診療・教育連係

金沢大学医学部  
周生期医療専門医養成学講座

NPO  
周生期医療支援機構

# 現 状



# K-CAPPICが目指すこと

周生期医療を志す若い人材を早期から継続的に教育する

産婦人科・小児科の診療能力を有する  
プライマリケア医育成に協力する

医師不足診療科とプライマリケア診療科との  
連携を構築する

# 未来

